

発 行 所↓

本 龍 院 待 乳山

東京都台東区浅草7-4-1

- 0032 TEL: 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

ら社様の 江書子編江 戸上や纂戸

府浅来業府

に提出された資料を全文記載子寺書上弐』より文政八年(ついて調査した資料を取り開始しました。《寺社書上》(「江戸府の地誌をまとめる」

文記載させていただきます。 八年(一八二五)本龍院かい取り纏めたものです。『寺書上》はその際、各寺社の書上》はその際、名寺社のめるため、《御府内風土記》

由事幕

日 子 中 渡

御

眼 祐

間

申 社、 三尺四

院安

様観

御音

建堂、

连 立、壹 買

但前

シ四

年間

月

不

知。

本尊木像子安観音

峰 社、 四尺三尺。

伏 神 社、 四尺三尺。

瘡 神 社、 兀 |尺壹間

間

一社 一社一社一社一社一社 一社拝内 弁毘三 十歓 本 一本、之道、之、之、之、之、之大、之殿陣内北財沙宝天一喜祭推尊 、龍絵北灌稲西疱南疫東三東庚西猷子西天歓池条天門荒安面天礼古歓様聖院 稲荷 荷社 \vdash 唱四 兀 候尺 間 間

陣三 間 兀 間、 拝 殿 六 間 間 向 背 付。

> 大 猷

> 院

月五. 廿月 で天 神降 輿鎮 氏座

称 檀 座

立立作赤 像像。 伝

[教大師

卿御鱗当 法筆之院 °紋江 対対付。 之年 月 不 知 元 社

者 境 一一一一一什

。花壹

龍数 。花壹 山、慈形面。 下弐覚鏡 瓦千大 町七師壹 西百所面 側八持 表拾 間七 口坪 八余 拾 壹 間 兀 尺、

坪

数

反 六 畝二 拾 八 歩

一当 、金但

正十宮観十而瑞人龍シ七門境唐神陰 十二様六二此ニ皇山田拾前内鈴代陽 八坊御年坊山一三由ニ八町惣、八鏡 年禁朱正共ヲ夜十来シ坪金坪一ツ 頂制印月、金涌四之テ 。龍数 。花 戴、 十中龍現代事三 山、慈形 月十四日遷化ス。中興開山慈覚大師金龍山号。又待乳山湘現之山ニシテ、世四代推古天皇三乙卯の代本 所 前 前 前 前 時 年 、 代山観 不詳。 下出 伏上。力 仍先

、照貞、

今通本。 坊

行政 事八 修年 院一。月。

善十 本 龍 院。 煩 付 代、 松 寿

半

間 弐 間

成間 間

基基一。。ケ

天 町 東 町

並

迦、 壹 躰。 石 古

年対。 藤忠右衛 衛 門立。 年 中 野 勘 左 衛 門

立

壹

基

町戸月対 田従 聖茂四

天睡位

横入下

町道森1

金立氏

龍

Щ

下

瓦

町

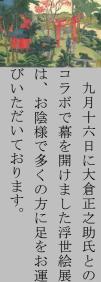
山

谷

堀

造長

寄



隅田川」と題し、葛飾北斎の 本隅田川両岸一覧』を中心に、 くの浮世絵を展示しております。 今回の浮世絵展では「待乳山と 『絵本隅田川両岸一覧』は高輪 『絵 多

から浅草・橋場までの隅田川両岸

江戸時代から明治に書かれた珍しい浮世絵も展示さ の浮世絵に写し描いています。パネル展示だけでは の風景を描いたものをまとめた本です。 れております。滅多にない機会ですので是非ご鑑賞 「時の人々の生活や遊び、 他にも当山所有の浮世絵も多く展示されています。 実物の本も手に取ってご覧いただけます。 四季折々の姿を四十六枚 葛飾北斎が

氏による**「浮世絵展ギャラリートー** 時と十四時浅草寺教化部の学芸員である藤元裕二 残り日数が少なくなってきましたが十月一日の十 こちらも是非ご参加ください。 がに行われ

くださいませ。

日時 平成二十九年九月十六日~十月四日まで

会場 信徒会館大広間特設会場 九時半~十六時まで

震災供養碑の慰霊法要

が行われました。 九月一日、 住職導師の下、 震災供養碑の慰霊法要

当 要を行っております。 の日には、 「山の敷地にあったものです。毎年九月一日の防災 当山の隣の聖天公園にある震災供養碑は戦前まで 関東大震災で亡くなった方を供養する法

道灌稲荷跡碑 除幕式

た。 わり、 が開かれました。 八月七日より行っていた稲荷社の鳥居の改修が終 それに合わせて九月三日、道灌稲荷跡碑除幕式 稲荷社の右隣に道灌稲荷跡碑が建立されまし

が祀られていました。太田道灌(一四三かつて当山の境内には太田道灌勧請 灌稲荷と唱候、四尺一間」とあり、また、 府に提出された『寺社書上』には、「一、稲荷社、 ています。文政八年 (一八二五)、本龍院より江戸幕 は、 天町内の木戸には「道灌稲荷の守護」の札が貼られ、 したと言われ、特に稲荷尊と縁が深かったと言われ 武将です。江戸城守護のために多くの神社を勧請 江戸城を築城したことで知られる室町時代後期 (一四三二—八六) 請の道灌稲 かつて聖 道 荷

0)

受けていたことがわか 地 域の人々より尊拝を

ります。

職他、 当 日 当山僧侶六名出仕 は導師である住

要と除幕を行いました。

下

稲荷社の前にて法

七五三参りの案内

長の節目を祝う年中行事の一つとなっていますが、 っております。七五三参りは三歳、 当山では十月から十一月を中心に七五三参りを承 五歳、 七歳の成

されています。 の行事となり定着した、 を取り、帯を締める)とい 七歳女児の「帯解」(付け帯 の「袴着」(袴をつける)、 を伸ばし始める)、五歳男児 で行う異なった行事でした。 もともとはそれぞれの年齢 う儀式が七五三という一連 二歳男児・女児の「髪置」(髪

したお守りとお供物をお授け致します。 法要が終られた後、 堂内陣にて行者様から直々にお加持を授けられます。 お子様のお名前とお年が入りま お参りは一家族ごとに本

ご連絡下さい。 望の方が多くなりますので、 法要は予約にて承っております。土曜日曜はご希 御志納金 荚 お早めに寺務所の方に 000円也



駄と法要用の雪駄を奉納してい 使わせていただきます。 ただきました。本堂に上がる際 吉田純真様より行者様用の



十月の御縁日大法要・行事紹介

歓喜講祈祷会

十月十五日(日) 午前十一時 講金 三、〇〇〇円

歓喜講は昭和三十三年に発足いたしました。

足されました。他講同様二十日に行われておりました歓喜講も、平成十七年開山一四その際、狐社中は舞を行いながら福餅やお菓子と共に千社札を皆様に頒布いたし ○年の記念の年に現在の十月第三日曜日にかわり皆様の開運招福を祈願する大般ました。

若転読祈祷法要と相成りました。

れたと言われております。あまりに膨大な経典であることから、完全に読誦することいる間は参籠しているのと同じ功徳を受けるという信仰へと変わり、高い竿を使 ○三)に初めて大般若供養会が行われ、太平七年 ドから中国に持ち帰り、漢訳したものが日本に伝わりました。文武天皇の大宝三年(七第に、札所や千という数字には特にこだわらず、各地の神社仏閣を巡ることが目 べてで六百巻の膨大な経典です。西遊記の三蔵法師のモデルとなった玄奘三蔵がイン七八一―一七八九)に稲荷千社詣をきっかけにして、特に盛んになりました。次

げて読誦のかわりとする転読の手法が伝わっ を読み上げ、数人の僧が手分けをして経本を広 は非常に稀で、古来、お導師が大般若経の功徳

ております。

申し込みの皆様 によって尊天様をご供養申し上げ、御宝前でお いといわれております。この大般若転読の功徳 を叶えるためにはこの経典に超えるものはな そもそも大般若とは、厄難を退け、福寿増長 一人ひとりの開運 |招福をご祈

せの上、 喜講祈祷札を授与いたします。皆様お誘いあわ なお、お申し込みの方には、 お申し込みください 御芳名入りの歓







千社礼について

「時の本堂再建促進にあたり、多くの信者様に御寄進をお願いし、その奇縁より発境内を囃子や太鼓と共に練り歩く粋な姿に参拝客の皆様は楽しまれたようです。 狐舞ひ」を披露していただきました。福福しい笑みの狐の面を被った狐舞たちが. 九月十六日、待乳山本龍院では浮世絵展の開催を祝い、吉原狐社中より「吉原

大般若経は仏教の教義が書かれている長短様々な般若経典を集大成したもので、すりから来ています。平安時代から続くこの風習は、江戸時代中期の天明年間(一 (七三五)大般若転読会は恒例化さ的になっていたようです。同時に、自分の名前や住所を書いた札を境内に貼って って境内の高所に張り付けるようになりました。これが千社札の始まりだと言わ れています。 千社札の千社とは、千の神社仏閣を参拝することで、祈願の達成を祈る千社詣

けのお土産としても人気を集めています。 の間で名刺のように交換されたそうです。現代ではそのデザインから、 た「交換納札」と呼ばれる札も登場しました。千社札文字と呼ばれる独特の書体 に絵や柄を配し、浮世絵のように凝った装飾をした札は、一部の町人や舞妓たち 千社札の人気が高まると、お寺に納めるためではなく交換を目的として刷ら 外国人向

多く、千社札を貼ることを禁止にしている神社仏閣も増えてきました。狐社中が 近年は合成糊の跡が残ってしまうことや、貴重な建築物を傷つけてしまう事例 皆様に当山で頒布した千社札も、 ればと思います。 信仰を超えて日本の伝統として長く親しまれている千社札ですが、残念ながら 基本的には「交換納札」として楽しんでいただ







御縁日大法要

歓喜講祈祷会 十月十五日(日)午前十一時

講金 三、〇〇〇円也

ご参拝の皆様の開運招福を祈念し、 各自のお名前入りのお札を授与いたします。

朝 まい Ŋ 会 十月一日~七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

勤 行 十月八日 (日)

曜

午前九時

参加費 無 料

天様の不思議方便のお働

頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈祷

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

十月八日 (日)

午前十時/午後一時 会 費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

を、

午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

の会 十月二十八日 (土) 午後五時~七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

坐

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要 十月二十五日 (水) 午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、 皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。 でも受け付けております。

十一月の行事

写経供養会 十一月十二日

講

十一月二十日(月)

月

午前十一時三十分

講 金 一、 五〇〇円也

午前十一時

講 金一、五〇〇円也

ご祈祷のご案内 祈祷料

ます。この供養法は聖天様 ある浴油供は、密教の中で|浴油祈祷 三千五百円 (一週間) 最も深秘の法とされてい 聖天様独特の供養法で |別座祈祷 壱万円 (一週間) 華水供 五百円 (一日)

法要案内

のお力がより一層高めら

きを得て、必ず成就させて|百味供養 法要料 八万円 れるような願い事でも、尊 しております。寺務所にて|供養をいたします。 毎朝開堂と同時に厳修 ることで、尊天さまに御礼の 私どもが不可能と思わ っております。 問い合わせください。 出仕の僧侶が声明をお唱えす 当山では予約にて法要を行 沢山のお供物をお供えし、 寺務所にてお

|大般若法要 法要料 五万円

受け付けておりますので、

お名前とお願いの内容、祈 またご遠方の方やお急|たします。 て、大般若経六百巻を転読 所願成就御礼の法要とし

祷期間をお伝え下さい。

ぎの方は、お電話やお手紙|自動車加持 法要料 壱万円

どうぞお申込みください。 たします。当日はお車にてお 越しください。 当院にてお車のお加持をい

やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。 皆様からのご質問、 お知りになりたいことを受け付けております。ご意見